





浜松アーツ&クリエイション市民活動支援セミナー 身近な事例から活動のヒントを探る

12月12日に開催した、浜松アーツ&クリエイション市民活動支援セミナー「身近な事例から活動のヒントを探る」の様子を紹介いたします。当日は、ダンサーや演奏家、アートイベントを主催する方など、様々な方がご参加くださいました。

まずは、シズオカオーケストラ代表の井上泉さんから事例発表していただきました。



井上 泉
INOUE IZUMI

『シズオカオーケストラ』は音楽団体ではなく、まちづくりに関するプロジェクト集団です。まちにはいろいろな人がいて、いろいろな物事があって、合わさって、作用しあって、まちができていて、まるで音楽のようだと思っています。捉え方や関わり方によって、まちを面白く感じられる、また、組み合わせたり、編集したりしていくことで、さらに新しいものが起こっていく、それを楽しむ活動ができないかなと思っています。人と人、人とまちのあいだに有機的な繋がりが生まれることによって、平和なまちになっていく、そんなプロジェクトを行っています。

たくさんの事例をご紹介いただきましたが、『関係者人口を増やすには?』というテーマで、ここでは、いくつかの事例を紹介します。

グリーンドリンクス静岡 <http://shizuoka-orchestra.com/gd/>

まちのことを着いて飲む飲み会。まちに興味を持った時に誰かと共有する場がなかったので、プラットフォームを作りたいと思ったのがきっかけ。小さなところから始まったが、そこからの出会いが新しいプロジェクトに繋がった。毎回、「静岡×〇〇」というテーマを設け、面白いことを行っている人をゲストに招いて、10周年を迎えた。

グリーンドリンクス静岡×青葉小学校舎メモリアルイベント 「うまれかわりの文化祭」 <http://shizuoka-orchestra.com/gd/gd-36/>

閉校した静岡市立青葉小学校の校舎が歴史文化施設として生まれ変わるための取り壊し直前に開催した文化祭のようなイベント。自由に落書きOKな学校見学や体育館での音楽コンサート、屋上プールでのトークライブ等を開催。

「うまれかわりの文化祭」は、今まで出会った人達を総動員して、まちの人が活躍し経済的にも潤うということを意識して開催したそうです。トークライブでは、最後の校長先生や歴史文化施設の担当者とスタッフの皆さんでクロストークしたそうですが、取り壊しに反対していた方々もとても良い笑顔で参加されていて、うまく交わる場所を提供でき、気持ちの成仏ができたのではないかと感じられたそうです。

プロジェクトによって関わる人は様々ですが、まちのなかで横とか斜めの線を増やしていく、ぼんやりしたまちの解像度が上がり、自分のまちとして勝手に遊ぶ人が増えていくようになったら面白いと感じている、とお話くださいました。

次に、NPO法人クロスメディアしまだ理事長の大石歩真さんと事務局長兒玉絵美さん。

地域づくりに取り組むNPO法人で、スキ(隙)だらけのまちづくりをコンセプトに地域の中でスキマ(隙間)を埋めていって、スキ(好き)を作っていくという活動をしています。全ての事業において、全ての人が、地域を発見し理解していくことによって、地域に愛着と誇りが生まれるのではないかと考えています。



大石歩真
OISHI ARUMA



兒玉絵美
KODAMA EMI

アートによる地域づくりを一つの柱とされているそうで、今回のセミナーでは、「UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川」の事例を紹介いただきました。

UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川

<http://unmanned.jp/>

2018年より、大井川鉄道の「無人駅及びその周辺エリア」を舞台に開催する芸術祭。アートを通じて、地域を見つめて感じてもらう取り組み。アートが地域の風土や美しい景色、人々の姿など魅力的な面を伝えていくとともに、アート作品を通して、地域における課題や問題も見てもらうことを目的として開催している。

最初は無人駅に作品を設置していたのですが、その後、作品は集落の中に広がっていったそうです。集落の茶畑や使われなくなった製茶工場や小さな集会所など、アーティストが掘り起こした地域の魅力は駅舎やホームにとどまらず、より広範囲で様々なテーマとなっていき、更に、アーティストがリサーチを重ね、一番の魅力は集落の人だということに気づき、作品に集落の方が参加するようになっていったそうです。

『ほりおこす、あらわす、ともにひらく』

この3つのフレーズで組み立てることを重要視しており、アーティストが地域を『ほりおこした』作品表現だからこそ、この地域でしかみられない、この地域での発表でなくては意味がない作品が生まれる、それを『あらわす』(制作する)際には、地域の人々も参加協力していく、この二つの過程があるからこそ、芸術祭という一つの枠組みが最終的に『ともにひらく』という「アーティスト」「集落の人々」「サポーター」「鑑賞者」、全ての人にとって価値あるものになっていく、地域づくりの観点からの芸術祭として組み立てているとお話くださいました。また、地域芸術祭として、過疎地域に文化芸術を届けることにより、地域への愛着・誇りをもたらす、文化芸術の力の大きさを実感しているとも仰っていました。

今後も、過疎による無人、時代の先進による無人、コロナ禍による無人、を考えながら2021年3月の芸術祭を企画されているそうです。

続いては、UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2020に出展されたアーティストのカトウマキさん。



カトウマキ
KATO MAKI

国内外の芸術祭を鑑賞し、その土地とアートが共鳴していく作品に魅了されているため、自分自身も様々な地域で制作・発表したいという願いがあります。「UNMANNED無人駅の芸術祭」の企画概要にも記されているとおり、自分自身もアートは気づきだと思っています。アートはエンターテインメントのようにみられることが多いけれど、綺麗なものや楽しいものだけではなく、見たくないものや見落としているものを表現することもあり、それが気づきに繋がっていると思っています。

【プロフィール】 植物に不思議な縁や力を感じ、植物が私たち人間に送るメッセージとは何かを探求し、創作活動を行っている。富士の山ビエンナーレ2016、富士の山ビエンナーレ2018、初個展「日々の私」/フェルケール博物館(2019)、UNMANNED無人駅の芸術祭/大井川2020

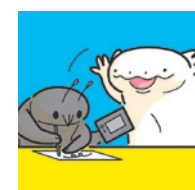
「無人駅の芸術祭」に出展し、他のアーティストからの影響を受け、自分の反省点・改善点を痛感されたそうです。表現したいことの軸は変わらなくとも、色々な地域、様々な人に出会うことにより、表現したいことの幅や奥行きが広がるように感じているとのことでした。鑑賞した方からは、作品をみて時の流れを感じ、今という世界が伝わってきたとの感想をいただき、また、コロナ禍で様々な方の発言などから多くのことを感じ、このような状況だからこそ、今を表現する作品を制作しなくてはと考え、活動しているとお話くださいました。



今回のセミナーでは、地域資源の発見・発信、新たな繋がり、団体・活動の持続・継続をテーマに開催しましたが、普段は個々で活動している個人が集まる必要がある時には集まり、プロジェクトによって、大きい集団になったり、小さい集団になったり、流動的に活動するのが持続可能な団体・活動の運営に繋がるのではないかと、また、事業の評価方法について、イベント実施の際には、来場者数が全ての指標ではなく、地域の温度変化のようなものを見せていく必要があると感じていらっしゃるというお話が印象的でした。

浜松アーツ&クリエイションでは、今後も、文化芸術活動を含めた様々な活動のヒントとなるようなセミナーを開催していきます。詳細は裏面をご覧ください。

セミナーのチラシは浜松市出身のイラストレーターいきものだものさんに制作していただきました!



イラストレーター いきものだもの

やさしい・ゆるい・わかりやすいをモットーに、生き物のイラストを描いているイラストレーターいきものだものです。人や犬猫などの哺乳類のほか、ハ虫類・両生類、魚類、鳥類、虫、菌類、植物などなんでも描きます。全ての生物を友達を描くようにイラストにするのが僕の夢です。SNSでほぼ毎日イラストをアップしています。また2021年は浜松市内で展覧会を2本計画していますので、ぜひ検索してみてくださいね。



浜松市創造都市推進事業補助金採択事業及び浜松アーツ&クリエイションが実施するイベントを紹介します。

~1/24回	川名ひよんどりアート写真展 川名ひよんどり保存会	1/24回	養生カフェ 里の家
~1/30回	表現未満、文化祭2020 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ	1/24回	中田島砂丘にあるものを使った3つのワークショップ 中田島砂丘観光協会
1/10回	ネイチャーガイド養成講座 NPO法人浜名湖フォーラム	1/24回-30回	移動ミュージアム 中田島砂丘観光協会
1/17回	ネイチャーガイド養成講座 NPO法人浜名湖フォーラム	1/30回	ネイチャーガイド養成講座&アマモ苗付け体験 NPO法人浜名湖フォーラム
1/12回-30回	街角製本展 街角製本教室実行委員会	1/31回	SHARE THE PARK DAY! Share The Park
1/24回	ネイチャーガイド養成講座 NPO法人浜名湖フォーラム		

セミナー

3.6回
16:00-17:30

山口周講演会

「ノーマルの時代に求められるニュータイプのリーダーシップとは？」

不確実性が高まり、モノの需要が飽和するアフターコロナの時代において、新しい価値を生み出すために求められている「ニュータイプの思考・行動様式」についてお話ししていただきます。

会場 アクトシティ浜松中ホール

参加費 無料

申込方法 浜松アーツ&クリエイションのホームページよりお申し込みください。



山口周

1970年東京都生まれ。独立研究者、著作家、パブリックスピーカー。電通、BCGなどで戦略策定、文化政策、組織開発等に従事。著書に『ニュータイプの時代』『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』『武器になる哲学』など。慶應義塾大学文学部哲学科、同大学院文学研究科修士課程修了。株式会社中川政七商店社外取締役、株式会社モバイルファクトリー社外取締役。

新型コロナウイルス 感染防止対策へのご協力をお願い

- マスクの常時着用、咳エチケット、入場時の手指消毒や検温へのご協力をお願いします。
- 万が一、感染者が発生した場合、参加者のお名前と連絡先を保健所に情報提供をする可能性があります。
- 右の条件に該当されるお客様はご来場をご遠慮ください。

- ①37.5度以上の発熱の症状もしくは体調に不安のある方。
- ②マスクをご着用いただけず（マスクは各自でご用意ください）。
- ③新型コロナウイルス感染症陽性とされた方との濃厚接触がある方。
- ④セミナー開催日から遡って2週間以内に海外から日本へ入国された方。

今号の表紙



制作者

かわむらこうへい
(美術作家)

表紙テーマ

不完全性

かわむらこうへい profile

浜松学芸高等学校美術科卒業。多摩美術大学彫刻専攻卒業。卒業後、和雑貨のメーカーのデザイナーをしながら絵を描き始める。主にねこの絵を描いており、絵本出版、オリジナルブランド(CATs were SILENT)のグッズ制作もしている。

高校1年の頃からHIPHOPのBEATの制作を続けており、最近自作のラップを自分の曲に乗せたMVを発表した。☆SUSHIという名前で活動している。ユーチューバーの霊臨(タマリン)のBGM、楽曲のトラックも全面バックアップしており、ほとんどの音を担当している。最近「めぞびあのきやんでい」というHIPHOP3人組ユニットを組みビートメイクを担当している。

作品制作にあたって

ねこは不完全な“精神の形”を持っています
完全な丸い形を持ったねこは一人もいません
絵の中の上と下でこちらを見ているねこたちは
多様性を認めた言動をとれているかという監視の目です

テーマ選定理由

先日、『原泉アートデイズ!』に伺ってきました。今年のテーマは『不完全性 Being Imperfect』でした。原泉アートプロジェクトの方々これまでの活動を通し、人と人、人と自然、人と地域の関係に様々な気付きを得て、考えを深めてきた中で、完全性/不完全性についての発見があったそうです。不完全性というテーマを頭の片隅に置いて運営された「原泉アートデイズ! 2020」に触発され、テーマに選びました。(浜松アーツ&クリエイション事務局)

〈原泉アートデイズ〉

掛川市北部に位置する原泉地区で、アーティスト・イン・レジデンスを主軸とし、滞在した国内外の現代アーティストたちの制作のプロセスから作品の発表までを総称した現代アートイベント。滞在・制作・展示などのあらゆる場面で空き茶工場や空き家、空き施設を最大限活用するのも特徴の一つ。サステナビリティという概念に基づき、常に進化し続けている。

[主催]原泉アートプロジェクト <https://haraizumiart.com/>

発行元/公益財団法人浜松市文化振興財団
〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1 TEL 053-451-1158

<http://www.hamamatsu-artscreation.jp>

Facebook

@HamamatsuArtsAndCreation

Twitter

@hamamatsu_a_c

Instagram

@hamamatsu_a_c